

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人 鈴鹿文化学園		
事業所名	グループホーム 愛すみよし苑		
所在地	鈴鹿市住吉一丁目23番8号		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町提出日	平成23年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490300106&SCD=320□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 10 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境にめぐまれており、室内は、バリアフリー仕様で、設備にはユニバーサルデザインを使う等、利用者様の生活に配慮しています。 当苑の理念にもあるように、利用者様が家庭的な雰囲気の中で、馴染みの人間関係や環境を維持しながら、その人らしく生活していくことを支援しています。環境を整えて安定的な人間関係を築き、落ち着いた生活を営んでいたけよう、接し方や言葉かけに注意をしながら、利用者様の人権と尊厳を最大限に尊重しています。また、隣接する医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒やボランティアの訪問もあり、利用者様と外部の方々との交流も頻繁に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療福祉専門学校の介護福祉科の校舎が事業所の向かいにあり、以前、介護実習にきた生徒が窓から手を振ってきた。それを楽しみに窓辺で座って待っていた入居者が嬉しそうに手を振り返し、職員も一緒に振り返す様子が微笑ましかった。学生の実習やヘルパー講習の受講者がボランティアで散歩の移動介助に入るなどの交流は入居者にとっても利点があり、学校と事業所は良い相互関係を築いている。開設2年目ではあるが、入居者と職員の多くが地元の人ということで、面会者や地域住民のみんなが馴染みの関係で、事業所を応援してくれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、毎日の朝礼時には全員が唱和をしている。また、職員会議の中で説明・確認を行い、話し合いを行っている。	理念の中にある、「その人らしく生活していくこと」を支援の原点とし、共感することと強制しない関わりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、月に1度介護予防教室を開催し地元の方々と懇談の場を持っている。また、隣接する学校の介護福祉科の学生の実習の場として受け入れている。	介護予防教室の他に、入居者も参加する行事(地元の住職を招いての法話会、夏祭り)を催し、地域の方と交流することで認知症への理解に努めている。自治会からは地域の夏祭りや公民館行事等の催しのお知らせをいただき、参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度、介護予防教室を開催した際に、参加していただいた方に対して、認知症への理解を求める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、話し合いや意見交換を行っている。会議の内容は議事録に残し、聞かせていただいた意見は職員会議に採用してサービス向上に活かしている。	関係する複数の自治会長や民生委員に参加してもらい、事業所の取組みについての質問やそれぞれの地域活動の報告やお誘いをしてもらっている。議事録はファイルに綴じて、玄関に置き、訪問者が自由に閲覧できるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時広域連合との連絡を行い、ご指導いただいている。運営推進会議には地域包括担当者に出席いただき、情報交換を行っている。また、月に1度、生活(介護)相談員の訪問を受けている。	広域連合へは苑長・管理者・ケアマネが随時訪問や電話で質問・相談をしている。時には広域職員がホームに立ち寄り、苑長らと情報交換をするなど、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織しており、身体拘束・精神的な拘束・虐待等について職員会議で話し合いをしている。	身体拘束廃止委員会には全職員が参加し、職員会議の際や入居開始前に行っている。同法人の専門学校の介護福祉科の教師のもと勉強会を開き、他ホームでの事例検討などをして理解を深めている。玄関の鍵は昼間常時開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。管理者も職員も虐待があってはならないと認識している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について必要性を感じ、市や包括センターの講習会に積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の意見を十分に聞き、契約書に基づいて説明を行い、理解・納得をしていただいてから契約を交わしている。また、不安や疑問に対しては常に回答できるよう受付窓口を開放している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情の窓口を明記し、口頭において説明を行っている。また、利用者や家族の意見・要望があれば、改善に向けて話し合いを行うよう努めている。	家族の面会が多く、職員と家族が気軽に話せる関係が築かれている。職員が把握した家族からの意見は申し送り用ノートに記入され、職員間で共有し、毎月のケアカンファレンスで検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時或いは定期的な会議の場で職員の意見や提案を取り上げ、検討し、よりよい運営につなげていく体制もでき、反映させている。	常勤職員が出席するケアカンファレンスの際に、運営に関する職員の意見も聞いている。カンファレンスには管理者とともに同法人の理事でもある苑長が出席するため、職員の意見が反映されやすい体制にある。管理者のメールBOX(伝言箱)に職員からの意見や提案を受けるしくみがあり、活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事上の悩み等が蓄積して仕事のモチベーションが下がらないよう、代表者や管理者が話を聞く等の対応をしている。また、個々の努力によって資格を取得した時は各自の給与に反映するよう考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修会への参加については出来る限り職員の希望に応じて参加できるようにしている。また、職員間で学んだ内容や技術についての勉強会を持ち、ケアの向上に努めている。 母体の学校の教師を招き施設内で勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修参加を奨励し、同業者との情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や相談時に本人の困りごとや不安・要望を聞き取って、利用開始までに職員が把握し対応できることで、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に利用者の生活歴や生活等の他、家族の不安・要望等を聞き取って、利用開始までに職員が把握し受け入れ体制を整え、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と管理者及び職員が十分に話し合い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として尊重し、また人生の先輩であるという意識を持って、日常生活の中で学んだり、支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加する行事を行ったり、面会時や電話等で情報交換をし、本人を支える為の協力関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人に訪問していただいたり、ご家族の協力をいただき、馴染みの場所やご自宅にお連れしていただいている。	入居者は地元の方が多いので、家族だけでなく、友人、元同僚、親戚らが面会に来る。面会者には必ずお茶でもてなし、居室でゆっくりしていただけるように配慮している。馴染みの美容院や店へは家族と出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通じてコミュニケーションが取れる人や、職員が声かけすることで積極的になる人など、個人の性格を把握して孤立することがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後でも、時々立ち寄っていたり、施設の行事の案内を送付するなどしている。必要に応じて経過をフォローしていくよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションも含め、本人の話をよく聞きながら把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は家族等から聞き取りを行い、本人本位に検討している。	センター方式をもとに事業所で独自に作成した入居者に関する情報集約表(ケア確認表)を担当職員が作成し、月毎にアセスメントを繰り返し、職員間で共有することで本人の思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等からよく話を聞く他、日々のコミュニケーションや家族からの情報により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察やコミュニケーションで得られた情報を毎日の記録に残すことで職員間で共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医等からの意見を聞き、ケア会議を開催し、各利用者の担当職員の案のもとで職員が話し合った内容を介護計画に反映するようにしている。	担当を持っている常勤職員が記入するケア確認表(アセスメント表)が毎月作成されている。介護計画はそれをもとに毎月モニタリングされ、3ヶ月に1回の見直しを行っている。月に一度は家族にケース記録を見てもらい、本人の様子を知ってもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌を昼と夜に分けて記入している。また、個別のケース記録の記入や申し送りノートを活用して、情報の共有はもちろんのことケアの実践や介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望は可能な限りきくように努めている。無理な場合はその要望に応じたサービスができるように話し合い、実施できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、隣接する学校の介護福祉科の実習を受け入れたり、介護ボランティアやレクリエーションのボランティアとの交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のかかりつけ医を持たない利用者については、当施設主治医の受診を月2回実施している。それ以外の方は本人が希望される医療機関を受診している。必要に応じて主治医との連絡を取り合いながら対応している。	協力医、利用前からのかかりつけ医とも月2回の往診を実施している。週3日勤務の看護師は協力病院からきており、医療との連携がとりやすい体制にある。協力医への受診は職員が行っているが、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するデイサービスの看護職員や、当法人の医療福祉専門学校に常勤している看護師に相談しながら支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療を要する利用者については、協力医療機関との連携があり、症状の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には口頭による説明のみを行っている。そのような状態になった時は主治医や家族等と密接な連携を取りながら対応していきたいが、実際には細かい取り決めは行われていない。	職員と看取りについての話し合いはしているが、現段階では職員の不安が大きく、方針を決めかねている状態にあり、管理者には事業所の課題であるという認識がある。	全職員で看取り介護に関する話し合いや勉強会等をし、現段階でできること・できないことを見極め、職員・家族が共有できる方針を明確にされることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルは作成済みだが、定期的な訓練は行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、地域との協力体制の整備ができていない。	年2回の避難誘導・消火・通報訓練が行われている。火災発生時には事業所裏の自治会長兼地区の自主防災隊長とは拡声器で知らせる等連携を取っている。自主防災隊の連絡網もいただいている。	毎年の避難訓練等は行われているが、職員や地域住民の意識づけのためにも、夜間想定避難誘導・召集訓練、敷地外への避難誘導等、机上訓練も含め、いろいろな角度からの訓練を今後も繰り返し継続されることを期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は、誇りやプライバシーを損ねることのないよう充分注意している。	入居者への共感を大切にし、なにごとにも強制しない関わりを心がけている。朝礼では施設長がいろいろな事例をもとに注意喚起している。『三つの「さ」 ①さわやかに②さりと③さりげなく』をケアのモットーとし、誇りを傷つけないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力本人の希望に合わせるよう努めている。 本人が思いや希望を表わしやすいよう、寄り添いながら、その方のペースに合わせて生活している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何がしたいのか希望を聞き、出来る限り叶えられるよう支援している。レクや苦手なことの強要はせず、基本的に自由な意思決定をしていただき、利用者個人の能力に応じた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の方は定期的に理容師の出張サービスを受けている。家族の協力を得て、いきつけの店に行っていただくこともある。服装等は本人が選んだり、職員と相談して選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて下拵えや準備、味付け、後片付けを職員と共にし、楽しんで食事ができる雰囲気作りをしている。	食材宅配業者による献立だが、地域の方から野菜をいただいた時やカロリー調整のために随時献立を変更して提供している。手作りおやつ、誕生日会、芋煮会など食を楽しむ取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量等の記録を行い、水分に関しては食事・おやつ・夜間など普段の摂取量は把握している。疾病のある利用者に配慮して、手作りおやつを作る等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じて口腔内の手入れや義歯の手入れを支援している。自分で出来ない利用者については職員が介助を行ったり、出来る方は状態の把握をしている。 かかりつけの歯科に歯垢除去に行かれる方もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを記録検討し、周期を確認しながら指導を行い、排泄の失敗をなくすよう努めているが、頻尿傾向の利用者には紙パンツやパットを頼っている。	排泄チェック表を記入するもトイレでの排泄につながらないケースが多く、会議でケアの見直しを行い、少しずつ改善されている。	排泄の自立支援の技術・意識を職員間で共有し、オムツやパットの使用を減らす取り組みを継続されることを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食材を利用した料理や、日中の活動(散歩・体操等)で身体を動かして、なるべく自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めておらず、週3回以上入浴するように、清潔保持の為に声かけで入浴していただいている。	入浴時間は午後のみだったが、1日中自由に変更した。ホームには臥床式、併設するデイサービスには座位式の特設浴槽があるため、介護度の高い入居者でも安心して入浴できる環境にある。ゆず風呂、しょうぶ湯も楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	短時間の昼寝を求める方もおり、個別な対応を行っている。基本的には夜間の睡眠を最優先として、状態確認時には配慮するよう指導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには各利用者の薬の説明書が入っており、服用前チェックと服用後チェックの記録を毎回個々に行っている。服薬変更の場合は連絡帳に記載し、職員全員周知の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、食器洗い、食器吹き、花の水やり等を、職員と共に考えながら行ったり、散歩等の外出や季節の外行事の支援を行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば外食の機会を設けたり、散歩を兼ねて近所に店に買い物に行くことがある。また、外出支援として定期的に戸外に行く事を行っている。	散歩のついでに近くの公園、買い物、自宅近辺等に頻繁に出かけている。玄関先や裏庭のベンチ、地域の方のご厚意でホームの向かいにテーブルセットを置いたサンテラスは入居者の憩いの場となっている。月に一度、車での外出を計画し、時には家族とともに海岸や花見などに出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難や健忘等の諸問題の発生から余計な心労を防ぐために金銭の管理は事務所が一括に行っているが、本人の希望で職員と一緒に買い物に出かけたり、職員が頼まれたものを代わって購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援を行います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を置いたり、利用者が作った作品等を飾ったりして、居心地の良い空間作りに努めている。	食堂兼リビングは少し狭めではあるが、吹き抜けの高い天井と天窓が開放的である。山野草を活けたり、職員が撮影した季節の花の写真を掲示することで季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設はそれぞれの広い空間がないが、利用者どおし思い思いに過ごしている。地権者さんのご厚意により道路を隔てた施設向かいにテーブルやいすを置いてサンテラスを作り、お茶の時間や外気浴を行うなど、憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただくようにし、居室の工夫は本人と家族に任せている。また、お誕生日のカードやプレゼントを飾ったりする方も多い。	居室の工夫は本人、家族主体に行っているが、職員の清掃クラブも協力し、日常の居心地良さに配慮している。各居室に洗面台が設置され、電気かみそりや電動歯ブラシなどを各居室で使えるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は全面バリアフリーで、手すりが各所に取り付けられており、備品はユニバーサルデザインを採用している。個々の身体機能に応じて福祉用具を使って、安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		